

JIA災害対策委員会行動記録 memo

2007年3月26日 PM16:00～18:00 JIA館5A 中田委員長・高野参予・庫川委員・松島委員・森岡委員
緊急災害対策委員会招集 岡部委員・大羽賀委員 以上7名

議決： JIA災害対策マニュアルに基づいて現地災害本部設置を北陸支部(水野一郎支部長)に要請
北陸支部に現地対策本部設置3/26付
現地対策本部協議及び現地派遣 決定 中田委員長・大羽賀委員・高野参予
3/28予定「住宅密集地の災害予防から復興まで」は残京メンバーが予定通り開催
pm17:00からの記者会見は中田委員長が帰京して対応する

2007年3月27日 pm15:25 発 小松行 ANA755便 16:50 着 金沢駅 pm17:40 着 TAXI移動
pm18:00 北陸支部事務局に到着 〒920-0863 石川県金沢市玉川町15-1 パークサイドビル3F

現地状況報告

1. pm18:00 石川県から危険度判定要員として 建築士会・建築士事務所協会・建設業協会に対し、明日より3日間の予定で各会20名・計60名の派遣依頼あり
同じく明日から3日間、建築学会の学術ローラー調査が行われる。
これら調査が完了すれば被害の全体像が明確になると考えている。
2. 危険度判定や現況調査の依頼は基本的にはJIAには来ない。
3. 現地状況として清水幹事より写真による報告がある。
4. 北陸支部メンバーも3会に所属メンバーが多く、何らかの形で関与している。

個別報告

清水氏: 3/26に設計物件を中心に全件状況確認終了。門前町の被害は大きく
珠洲市には被害が見受けられない。七尾市もさほどに感じられない。
柳田温泉総合病院でRC躯体に剪断破壊が見られ(4階建て)崩壊までに
至らないが、丘陵地という条件がどう関係するのか。

西川氏: 七尾は被害は若干だが、和倉温泉は大きい。特に風評被害をメディア
を含め恐れている。

大畑氏: 26日に現地を廻り七尾市に瓦落下・変形。穴水町に倒壊家屋を確認した
輪島市内に古い民家の倒壊家屋を5～6件確認。輪島塗の工場内外被害
を確認

現地対策本部について

水野本部長(北陸支部支部長)

JIA災害対応マニュアルを検討し今後の対策を行う。

建築学会も5/27午後に協議、明日から2泊3日で5班に分かれ全数調査を行う。

分散集落の被害が確認できないているが、あと数日で被害の全貌が明らかになる。

店舗・倉庫・車庫等の比較的断面の大きく且つ古い瓦葺き木造建物に被害が大きい。

又、門前町の社寺にも被害がみられる

全般的に能登の民家は古くて壁が少なく屋根が重いという傾向を持つ。

中田JIA災害対策本部・副本部長

現地本部として、被害が少なかった地域及び部位の調査をお願いしたい。

4階建て以上の被害の度合い。ハードだけでなくソフトな部分を含め調査して欲しい

明日の県庁訪問を協議

懇親会(金沢駅前居酒屋)

宿泊 水野支部長紹介 私学事業団「兼六荘」(尾崎神社前) 泊

2007年3月28日 am8:20 チェックアウト TAXI am08:40 石川県庁1階ロビー am09:00 16階 建築住宅課に訪問

JIA 側 中田災害対策委員長・水野北陸支部長・高野参予・大羽賀委員・

大畑支部幹事・高屋支部幹事

県庁側 畝本秀一建築住宅課参事・地井土木営繕課長・高田課員

am09:00 ~ 09:55

水野支部長より見舞いと支援の申し入れに来た旨の主旨と、到着後 県知事とELV前で立ち話した旨話す。
中田委員長よりJIAの組織・全国同一組織・中越・福岡の支援実績と、今後被災度判定で支援させていただきたい旨の申し入れをする。

県庁側より、応急危険度判定では行政と地元建築3団体で対応できるが、今後の被災度判定・罹災証明関連対応は未だ各市町村では検討できていない。危険度判定で目一杯の状態である。

現実的な行政が判断するタイミングに合わせ、JIA組織の支援が可能ならば、関連市町村に3団体の他にJIAがあることを通知することは出来る。実際に、輪島・門前・穴水・七尾の4地区程度に区分けすることになると思う。

事務局より中越地震時の三島町(現長岡市)の全戸被災度判定の記録を至急送致することとした。

建築営繕課から1階ロビーに移動。中田委員長は水野支部長に送られ小松空港へ。JIA本部での記者会見へ向かう
高野参与・大羽賀委員は、高屋利行 北陸支部幹事の案内で高屋事務所スタッフの運転で被災現地に向かう。

am10:10 県庁駐車場出発 能登自動車道 柳田IC 猫の目交差点 am11:00 志賀町 国道249号線
ブルーシート・倉庫マルチクラック 散見

am11:15 七尾市中島町 笹島駅近く 11:50 室木家(指定保存家屋)高屋氏関与建物 視察見学
移動後昼食(おとみさん) 13:00 穴水町旧道 中壊・全壊・崩壊 記録する

pm14:00 輪島市街地に入る。輪島市役所南側市街地を歩行移動。中壊・全壊・崩壊がかなり見られる。

pm15:00 輪島市門前町道下地区に入る。震源に最も近く且つ断層の移動変形の直上に当たる地域。
全壊・全崩壊家屋が多く見られ、死者が無いことが不思議である。道路及び路盤には大きな変形沈下は見られない。土台及び基礎の立上りが不足し白蟻・腐食の断面欠損・劣化による引き抜き耐力壁の絶対的な不足が顕著である。セオリー通り壊れるべくして壊れている建物が見られる。
RCの建物が2棟(医院・住宅)は建物は無傷。

写真記録 125枚・VTR 約30分 記録

pm16:15 滞在時間限界 移動開始 JR金沢駅到着pm18:25 小松空港へBUS移動 小松空港着 PM19:20
夕食

pm20:25 JAL 小松発東京行き 最終便で帰京。pm21:40 羽田で解散する

特記memo

北陸支部のメンバーの発言から考えるべき事として
震災復興とは何か。JIAの震災復興支援の考え方に反論ではなく、この能登の地で「復興」と考えるとしたら何かがあるのか。何が必要なのか。
過疎化・高齢化の傾向が著しい能登半島地区。若年層が金沢市などの都市部へ行き、地元には殆ど残らない。物理的な復興は出来る。被害も「大災害」とは云えない。
でも、高齢者は子ども達の住む都市部への移動が、子ども達の要望として出てくる。
行き場のない高齢者は「仮設住宅 復興住宅」に住まざる得ない。
若年層は家族のいない、働き場のない地元に拘る意味を失う。
今回の災害が必然として、復興・再出発の意味を失い、過疎化・人口流出の引き金に成る。
だとしたら、震災避難・人命確保・生活支援の後に続くものは何なのか。
そこの視点を間違えると、より大きな何かを失うことになる。

2007年4月2日 pm15:00～17:00 JIA館5F応接 災害対策委員会緊急招集

出席：岡部委員・庫川委員・小西委員・大羽賀委員・高野参予 以上5名 中田委員長入院療養
石川県から北陸支部へ建築相談ボランティアの派遣要請対応協議

近県・及び新潟地域会・群馬地域会・埼玉地域会・長野地域会・神奈川地域会を中心に
動員を掛ける。 呼び掛け文・要項は事務局で作成
入院加療は大羽賀委員が代行する
災害対策活動ファンドの協力呼び掛け
密集住宅地災害予防から復興までの編集・出版を推進する。